

読んで欲しい東條恵の出版書籍 発達障がい関連

① 発達障害ガイドブック



はじめて作った本、父母への説明に疲弊する中で、父母などに読んで貰おうと作成。この頃は、まだ解説本が世の中に少なく、1万部弱が読まれたが…最近は多くの類書があり、読まれなくなっている。残念！

2004年発刊

② 知っておきたい 発達障がいキーワード

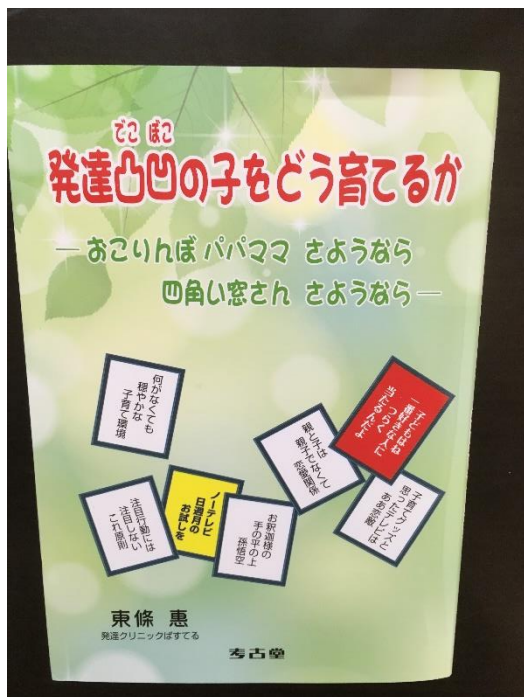


言葉を学ぶ必要があると、作成した。力作！ 人は言葉で物事を、人を、子どもを、そして子供の言動のずれ、その意味を知る。その言葉は、外部からくる。個々の人は、外部から脳内に新たな言葉を注入（外部注入）することで理解を深めるはず。しかしあまり読

まれていないようで残念！

2010年発刊

③発達凸凹の子をどう育てるか



現在のクリニック開始後、まだまだ親子コミュニケーション支援（ペアレントトレーニングを含む）が必要と感じ、子育てとわんこ育ての経験を入れて作成。難しい言葉でなく、分かり易さを主眼とした。自分でも出来は良いと感じるが・・・。2019年発刊。

④ 子育て親育ち とどけ！ 親と子への応援歌 @年発行



自分の幼少期の記憶を含めて、子育ての事を書いてみた。これを作った時には、「一番言いたいことを書いた・これまでで、自分にとっては一番出来の良い本！」と思った記憶がある。是非、読んで欲しい。 2010年発刊。

⑤ どうすればいい？

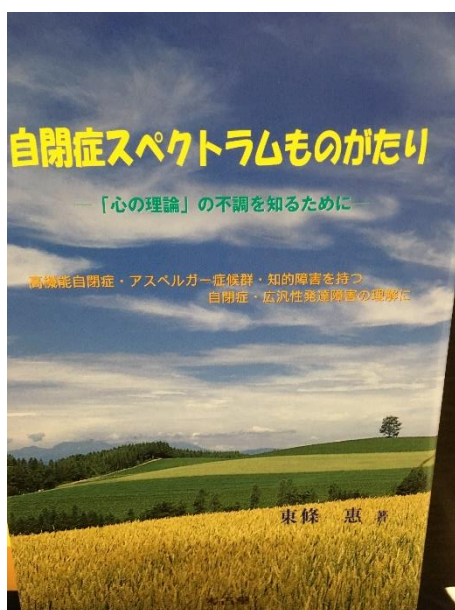
発達障がいの気づき・見立て・支援



一人一人をどう見立て、「どう支援すべきか」を述べた。診断が大事というよりも、その様な状態であるかを判断し、それぞれの支援モデルを考え、支援内容を考える必要があるとした。支援者はどう見立て、判断し、支援をするかを述べている。

2008年発刊。

⑥ 自閉症スペクトラムものがたり @年発行(絶版)



自閉症の本質は何だろう？私は「心の理論の不調」と考えている。この問題を正面から取り上げた本。自閉症者の自伝を引用しながら、どのような精神世界かなど、多数派とのずれを考える本。現在は絶版となっている。クリニックで貸し出し中。力作。2006年発刊。

⑥ アスペルガー症候群・自閉小のあなたへー自分の事を知りもっと好き
になるために 2004年発刊。

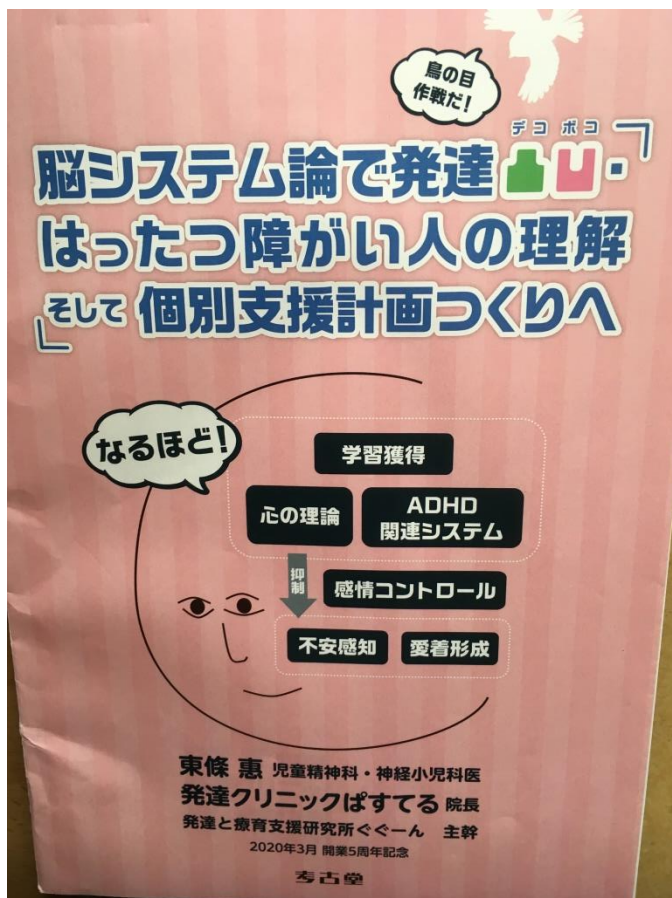
当事者が自分の事を理解する上で少しでも役に立つかと思い、作成した本。なかなか自己理解画成立することは難しいと実感する。これは多数派も同じだろう。言葉を解して行うことになるし、その言葉を当事者の頭の中に運び込む人が必要。言葉が「外部注入」される事が必要になっている。



⑦ 脳システム論で発達凸凹・はったつ障がい・人の

理解 そして個別支援計画づくり 〜 2020年春発行予定

支援の現場での「個別支援計画づくり」はまだまだ不十分と感じる中で、医療と教育・保育をつなぐ架け橋を作ろうと、本書を作成中。私たちの生き方、それを支える脳内プログラムソフトの好調・不調を考えることで、支援ができると主張したい。それを考える事が「脳システム論」。本人としては、久々の力作。最後の本かも。本書が多くの人に読まれ、「脳システム論」が支援に利用されることが当たり前になることを期待。



読んで欲しい東條恵の出版書籍 脳性麻痺・リハ

脳性まひの療育と理学療法

上田法およびボツリヌス療法による筋緊張のコントロールと評価

診断と治療社 2015年

新潟県はまぐみ小児療育センターに28年勤務。その間、リハ内容(理学療法)を、上田法という理学療法を通して考えるようになった。1988年だから、30年前ということになる。上田法を後世に残すために、自分が体験したこと、リハ関連データを本書に詰めた。歴史の中で残ることを期待している。きっとほぼ読まれてはいない。残念だが。



総じて

本を作る立場になるとは考えていなかった。ただ「作らねば」という思いで、必要に迫られて、ここまで来た。きっと作家はそんな人たちなのだろうか。私も、創作活動に一部触れたのであろうか。

私の文章はだらだらとしがちであり、美しくはないが、私の「命の発露」と思ってもらえれば幸いである。

2020年 コロナ禍のなかで書いているが、何か怖れを感じている。命の危機・危うさでもあり、全体主義的なものを感じるからでもあり、今までの日常がこんな形で予期もしない形で、いとも簡単に崩れるからでもあろう。

2020年4月19日 コロナ禍 緊急事態宣言直後